

中国5県休眠預金等活用コンソーシアム

第5回 運営委員会 議事録

(1) 日時

2020年5月11日(月) 18時~20時

(2) 会場

Teams オンライン会議

(3) 参加者

① 運営委員

とっとり県民活動活性化センター	毛利葉
ふるさと島根定住財団	森山忍
岡山NPOセンター	石原達也
ひろしまNPOセンター	松原裕樹
やまぐち県民ネット21	伊藤彰

② 事務局

岡山NPOセンター	北内はるか
ひろしまNPOセンター	松村渉

(4) 議題

① 2019 年度実行団体の状況共有

各県担当 PO より、事業の進捗を行った。

島根県エリア：たすき

コロナの影響で実際に会って話すことができず若干の遅れがあったが、現在は最終的なやり取りを実施している。

捺印の必要な書類が整えば契約まで進められる予定。

当初の計画より 2 か月ほどスケジュールをずらして実施しているが、その 2 か月の調整で事業を実施できるのかというのが心配。

岡山エリア：子どもシェルターモモ

各種計画については提出いただいております、事務局による確認作業を進めている。

評価については社会福祉士会にお願いする予定でいるが、まだ実施はできていない。

広島エリア：湯来観光地域づくり公社

契約は 4 月 26 日付で結んだ。

その後、書類の完成に向けて細かな修正が発生し、現在その修正を実施している。

5 月 29 日までは各種準備を整え、第 1 回の助成金支払を行う予定で進めている。

広島エリア：NPO 狩留家

各種計画、規定類については提出済み。

現在、JANPIA の確認も含め各種計画のブラッシュアップを実施している。

土地を借りるため、その契約の方法については現在協議を継続している。

② コロナ対応型休眠預金（2020 年度）についての情報共有

石原委員より、この間の動きを共有いただき、今後の方針について確認を行った。

石原委員より

4 月 9 日に行政、政府関係の助成金、WAM や地球環境基金、休眠預金などを活用してほしいといった要望書を NPO 議連に提出した。

時間がない中での対応なので、議論をまとめて提案することが難しく、CIS からも意見をもらいつつ石原として要望を行った。

コロナ対応枠については、計画変更、増額、緊急事態なので補助率 100%、要件緩和、審査簡略化といった要望をお伝えし、これを議連で大枠を決めた流れだと思われる。

具体的なオーダーについては JANPIA が考えている

それもあって JANPIA からヒアリング要請をうけ、オンラインで JANPIA と協議を行った。

テーマや分野についてはまだ検討段階ではあるが、既存の仕組みや活動助成といったところは変えにくい様子だった。

金額としては議連の中でも様々な意見があり、まだまとまってはいない。

全国に配分していくことと、スピード感をもって実施することを踏まえ、2019 年度事業の資金分配団体や全国枠で実施可能な団体を公募する形を想定しているようだった。

③ コロナ対応型に対するコンソの方針や姿勢などの確認

コロナ対応について、当コンソの方針や姿勢の確認を行った。

通常枠の 2020 年度事業については予定通り申請をすることを確認した。

コロナ対応型については、応募要項等が明らかになってから改めて協議を行い検討することとした。

コロナ対応型についてのご意見

全国に配るという話になっているのが、47 都道府県全部に配れる団体は共募のような全国組織でないと難しいように思える

助成を行うより、助成された後の団体サポートに労力かける方向が良いと思う

社会インパクト評価については簡略化、ビフォーアフターで図るところで越えられると思っている

いまマイナスになってへこんでいるところを基に戻すとしても、全国で何千団体とやればインパクトはある。議連もそれでよいと言っていた。

スピード問われる、2020 年度の通常の公募は踏襲してやりつつ、コロナ対応は別枠として判断したい

コロナ対応型については配り手をやるよりは貰った相手の支援を意識したい

例えば共募などがやってくれるならそこと連携といった方法も検討したい

コンソーシアムで対応できた方がスキーム的にはよい

鳥根、鳥取（公益財団法人）については、受けることについては組織的にダメと言うことはない

体力的に対応できるかというのを、業務量が見えてこない判断できないが、しんどさが残る

休眠でやるときに成果と言われている中で、全体的に配ってそれがインパクトと言ってもらえるなら細かい処理は不要になると思うが、任意団体も含めて配ってどうなった？は国民から問われる。アフターフォローについては自分たちももう少し情報が欲しい。

全国統一になると申請数は多くなる。例えば 1,000 件になると、簡単な様式で実施してもとんでもない事務になる

自由に使える寄付金といった意見もあるが、休眠預金の性質を考えるとそれは国民の理解を得られないと思われる。やはり活動助成になるのではないか。

金額感については、各自治体が休業で出しているのが 20 万 30 万くらい。コロナ対応型もそれくらいの額を想定している。

④ その他

次回運営委員会開催日程については、5月下旬に通常枠の公募要領等が出るという話があるので、その後調整することとした。

2020年度通常募集の企画案については、同じ提案はできないということではあるが、コンソーシアムで中国5県全体の課題解決を進めていくという大枠についてはそのままに、各県の実施内容で提案することを確認した。

(5) 資料等

資料1 中国圏コンソーシアム団体 進捗状況





資料2

以上で議事のすべてを終了し、20:00に閉会した。

以上の議決を明確にするために本議事録を作成し、運営委員がこれに押印する。

2020年5月12日

中国5県休眠預金等活用コンソーシアム

運営委員長	松原裕樹 
運営委員	毛利葉 
運営委員	森山忍 
運営委員	石原達也 
運営委員	伊藤彰 